

特徴： 開放型省力化牛舎の新設による肉用牛繁殖雌牛の増頭

畜種等	肉用牛
県・市町村名	宮崎県小林市
取組実施者名	こばやし農業協同組合
経営形態	肉用牛繁殖経営（黒毛和種）
飼養頭羽数	繁殖牛450頭（50頭 9戸）
取組開始年	平成19年



小林地区牛舎



成牛舎の給餌作業

### 経営の概要

西諸県地域は、農業産出額の約7割を畜産が占める、本県を代表する畜産地帯であり、当JAこばやしの畜産物の取扱高は肉用牛を中心に140億円である。今後とも、肉用牛を地域の基幹作物として振興していく中で、農家の高齢化等による飼養戸数の減少 次代を担う担い手の確保 農家負担軽減による円滑な規模拡大の推進 生産性向上等が大きな課題となっている。

このため、JAが事業主体となり管内市町3カ所においてモデル的な開放型省力化牛舎を建設し、入植・リース方式（25年間：約65万円/年）により、技術指導体制の充実による担い手支援 規模拡大に伴う投資リスクの低減 データ収集によるモデル実証農場に取り組んでいる。

### 生産性向上の取組の概要

開放型省力化牛舎：太陽熱を積極的に利用できる採光性の高い屋根と、繁殖牛が自由に行動できるパドックを有し、糞尿搬出作業の低減を図りつつ、繁殖性が期待される牛舎

【効果】 労働力の削減・集約化 繁殖牛の増頭 観察の簡便化による繁殖成績の向上 効率的な労力配分による自給飼料生産の拡大

当JAが畜舎建設、管理運営（アパート形式）を行うことにより、地域一体となった畜産振興への取組が期待される。

【効果】 規模拡大に伴う投資リスク低減 技術指導体制の平準化による担い手支援 データ・効果に基づくモデル実証・普及啓発

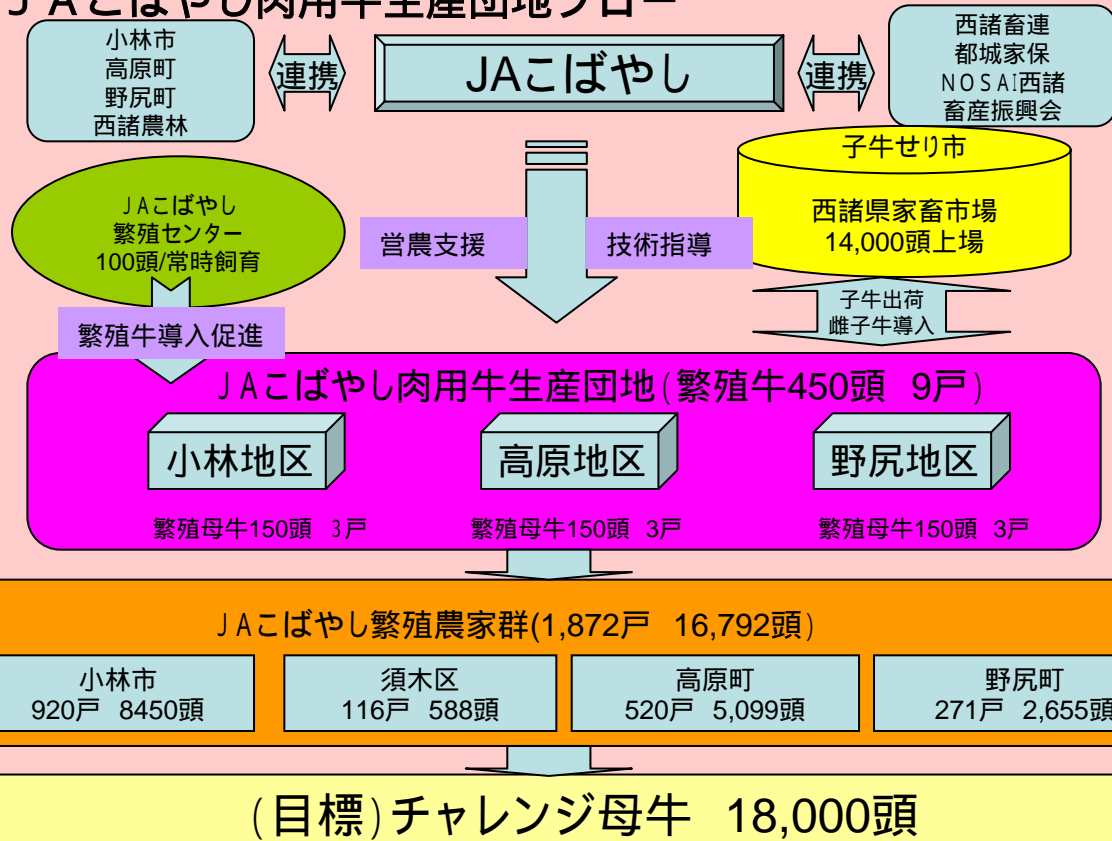


現地説明会



成牛舎内の子牛別飼

## JAこばやし肉用牛生産団地フロー



## 取組実施者からのコメント

JAこばやし肉用牛生産団地を設置したことにより、入植者は規模拡大や後継者の確保ができた。さらに、開放型省力牛舎の実証展示が図られ、新規に建設される肉用牛繁殖牛舎のほとんどが同様な方式となっており規模拡大や増頭に大きく貢献している。



JAこばやし畜産部  
和牛生産係長 村北明信さん

事例提供（執筆者）：こばやし農業協同組合畜産部畜産課和牛生産係長 村北明信

お問合せ： 宮崎県西諸県農林振興局農畜産課畜産担当 TEL 0984-23-3166